

# 施策評価管理シート

施策体系	政 策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	2017(平成29)年6月作成	
	基本施策	2	生涯学習・生涯スポーツの推進	担当部局名	部局長名
	施 策	2	生涯スポーツ	教育委員会事務局	高嶋 正広

## 1. 施策の基本方針 Plan

<p>○ 市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。</p> <p>○ 市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に取り組むことができるよう、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に取り組みます。</p>
--

## 2. 現状と課題 Plan

<p>○ スポーツを通じて得られる効果は健康増進、体力づくりのみならず、喜びや感動、達成感や連帯感、また、日常生活でのストレス解消など、精神的にも大きな効用があります。しかし、近年のライフスタイルの変化等によりスポーツをする人、全くしない人の二極化が進んでいます。</p> <p>○ 子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃から低下しており、子どもの親世代と比較しても大きく低下しています。このような状況の中で、「いかにスポーツをする機会を増やせるか、いかに継続させるか」が課題であり、引き続きアプローチ方法を模索していく必要があります。</p> <p>○ スポーツ活動の拠点となる市内の体育施設は、竣工後35年以上を経過している施設が多く、平成28年度には市民陸上競技場の整備を行いました。特に中央公園内の施設については老朽化が顕著になっており、平成33年開催予定の三重とこわか国体を視野に入れた施設整備が急務です。</p> <p>○ 施設の維持管理については、利用者の安全を最優先とし、合わせて利便性を考慮しながら日々の管理を実施していますが、早期改修が必要な施設が多くあることから、施設改修には多大の費用を要するため、有効かつ確実な財源確保が必要です。</p>
--

## ○施策指標（目標）及び達成状況 Plan Do

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合（％）	目標	-	-	-	43.0	
	成果	41.5	37.8			0.0%
市民1人あたりの年間体育施設利用回数（回）	目標	-	-	-	5.0	
	成果	4.4	4.5			16.7%
総合型地域スポーツクラブの認定団体数（団体）	目標	-	-	-	5	
	成果	2	3			33.3%

## 3. 課題解決への取組内容（平成28年度） Plan Do

計 画	実績及び主な成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブや各種団体等との連携を図りながら、市民がスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。また、日常生活にスポーツを取り入れ、継続して活動できる環境づくりに取り組みます。</li> <li>競技者の技術力向上を目指し、指導者の確保及び資質の向上を図ります。</li> <li>障害のある、ないを問わず、全ての市民がスポーツに親しめる機会を提供するとともに、障害者スポーツ競技を普及し、技術力向上を目指します。</li> <li>体育施設については、利用者の安全を確保するとともに、誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整えるため、施設のユニバーサルデザインを意識し、計画的に整備を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブを新たに1団体認定し、市民が身近に、継続してスポーツに親しめる環境整備を進めました。</li> <li>体育健康フェスタ・名張ひなち湖紅葉マラソンや名張市スポーツ推進委員協議会主催のおきつもウォーキング等、例年開催しているスポーツ関連行事に加え、平成28年度は、少年野球教室やボールゲームフェスタといった新たなスポーツ行事を開催し、市民がスポーツに触れる機会の創出を図ることができました。とりわけ体育健康フェスタでは、障害を持った現役アスリートによる講演及び実技を行い、障害者スポーツに関する啓発はもとより普及拡大を図ることができました。また、少年野球教室では、栄養学教室やプロ野球OB選手による指導者への実技指導を行い、競技者の技術力向上のみならず指導者の養成、資質向上を図ることができました。</li> <li>福祉子ども部と連携し、平成28年度に試行した「名張ケンコー！マイレージポイント」をさまざまな健康・スポーツ行事参加者に付与し、市民がスポーツに触れる機会を創出しました。</li> <li>市民陸上競技場の改修・整備を行うとともに、競技場内に身体障害者用駐車場を新設し、施設のユニバーサルデザイン化や障害者スポーツの普及拡大に寄与するための施設整備を行いました。</li> <li>平成33年開催の三重とこわか国体に向けて、市内開催競技種目（ホッケー・弓道・軟式野球・綱引き（公開競技））のうち、ホッケーに関して、ホッケースクール（小中学生対象：平成27年度開始）、大人のホッケー教室（高校生以上対象：平成28年度開始）を開催したほか、弓道競技に関して、平成28年度は、体育健康フェスタや教育フォーラムで、体験コーナーを設置し、普及啓発に取り組みました。</li> </ul>

#### 4. 成果を踏まえた課題や現状 **C**heck

・例年開催しているスポーツ関連行事（体育健康フェスタ・名張ひなち湖紅葉マラソン等）では、より多くの市民の皆様に来場、参加いただけるよう企画内容の充実に向けた取組を行うとともに、福祉子ども部等と連携し、「名張ケンコー！マイレージポイント」を活用するなど、市民が健康・スポーツ行事に参加する機会をさらに創出する必要があります。

・スポーツをする人、全くしない人の二極化が進み、子どもの体力・運動能力が、親世代と比較して大きく低下する中、スポーツ活動への関心を高めると共に、個々のニーズに応じた企画を立案するなど、引き続きアプローチ方法を模索していく必要があります。

・老朽化が進んでいる体育施設の改修については、国体開催を見据え、必要な財源を確保しながら、早急に進める必要があります。

・三重とこわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技種目の市民への普及啓発に取り組む必要があります。また、三重とこわか国体後の全国障害者スポーツ大会に関して、県等の情報を注視しながら、市福祉こども部等と連携し、市内における障害者スポーツの現状把握ならびに開催競技種目に関する研究調査を行う必要があります。

#### 5. 課題解決への取組内容（平成29年度） **A**ction

・総合型地域スポーツクラブや各種団体等との連携を図りながら、市民がスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。また、日常生活にスポーツを取り入れ、継続して活動できる環境づくりに取り組みます。

・例年開催しているスポーツ関連行事（体育健康フェスタ・名張ひなち湖紅葉マラソン等）について、既存の運営にとらわれず来場者、参加者視点での企画内容となるよう努めるとともに、福祉子ども部と連携した「名張ケンコー！マイレージポイント」の活用等を通じて、市民がスポーツに触れる機会の充実に取り組みます。

・三重とこわか国体並びに全国障害者スポーツ大会に向けて、三重県、関係機関や団体等と連携し、開催に向けた調査研究等を進めるとともに、市内開催競技種目の市民への普及啓発に取り組みます。

・障害のある、ないを問わず、全ての市民がスポーツに親しめる機会を提供するとともに、障害者スポーツ競技を普及し、技術力向上を目指します。

・体育施設については、引き続き適切に維持管理を行い、利用者の安全を確保するとともに、誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整えるため、市民陸上競技場のスタンド・トイレの整備等、施設のユニバーサルデザインを意識した整備を進めます。

#### 6. 行政評価委員会による総合評価 **C**heck

市民陸上競技場の改修を通じ、スポーツ・健康づくりを通じたツーリズムの促進を図ること。